

セミナールーム十訓より一「自分の言葉で伝えよ」

あることがらを本当に理解できているかどうかというのは、他の人に説明することができるかどうかでわかります。何となくおぼろげにしか理解出来ていない人の説明は全くわかりません。昔から、「人に教えることは自分の勉強になる」と言われるのはこのためです。人に説明しようとする事で自分自身の曖昧だった部分も浮き出てきます。そこをはっきりさせないと説明はできません。結果、人に説明する前に自分で一生懸命かみくだこうとします。それがよいのです。自分自身の深い理解につながります。

授業ではさまざまなことを説明します。塾生はそれを聞いています。どこまで理解出来たのか、それを確かめるためにあえて塾生にもう一度説明させることがあります。そうすると、大多数の塾生は、習った通りに覚えてしゃべろうとします。例えば中1英語の三単現のSについて、私が「三単現のSはどんな時に動詞につきますか。」と質問すると、「主語が三人称で、主語が単数で、動詞が現在形の時です。」と、多少つかえながらもほとんどの塾生は答えられるようになっています。しかし、これでは本当にどこまでわかっているのかあやしいものです。現に「ケンとユミはテニスをします。」という英作をさせると、多くの塾生は「Ken and Yumi plays tennis.」と書いてしまいました。正解は「Ken and Yumi play tennis.」です。主語は三人称なのですが、単数（一人）ではなく複数（二人）のため、三単現のSのつく条件を満たしていなかったのです。授業ではくどいほどに三人称についても単数についても現在形についても説明していますが、言葉を覚えようとする事に一生懸命で、しっかりと自分のものにはなっていなかったのです。人の説明を聞く時、丸覚えしようとするのではなく、自分で頑張って理解し、それを自分の言葉で言い換えてみるのが大切です。たどたどしくても、稚拙でもかまいません。例えば、先ほどの三単現のSのつく条件の説明ならばこのようにも言い換えられます。「主語がIでもyouでもweでもなくて、そしてその主語が複数ではなくて一人か一つで、過去や未来のことではない“今”のことを言っている—その3つのことがそろった時です。」

このように理解出来ていると、文を作るときに、「主語は I,you,we 以外かな？一人かな？今のことかな？」と自分の言葉で確認しながら進められます。これが全ての勉強の基本です。

難しい表現に出会った時、何とかして自分にわかる言葉に言い換えてみましょう。諦めないことが大切です。辞書で調べても、誰かに聞いてもかまいません。標題の「自分の言葉で伝えよ」とは、人に伝える際のことでもありながら、自分自身に伝える際のことでもあるのです。